



## 拠り所が移ろう家

この家は一家族という時間軸だけでなく、幾つかの時間軸を持つように集まって住む家の提案です。前庭とセットになった個室が3部屋と、生活に必要なキッチン・ダイニング、水回りを設け、それ以外は子供の出産や、住人の入れ替わり、アトリエや共有スペースを皆で設けたり等、自分たちで拠り所をつくっていくことができるように余白となっています。世代を繋ぐということは、世代を交代して繋げるのではなく、いくつかの世代が併走する状態をつくることであると思います。

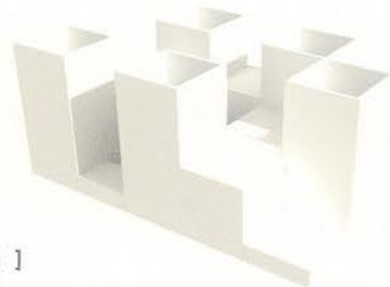
### 〈ダイアグラム〉



[ Fase1 ]

#### グリッドで構成する

個室や食事する場所、憩う場所などを等価に扱うことから始めます。全体の中に個の居場所をつくるのではなく、個の居場所の集まりが全体をつくります。それは同時に、後から入る人が拠り所をつくりやすい環境と言えます。



[ Fase2 ]

#### グリッドを隆起させる

凸凹したグリッドは、外部空間、共有部分、個室が混ざり合うように配置され、生活の変化や、住まうメンバーの変化に応じてカスタマイズされ、住宅は常に変化していきます。



[ Fase3 ]

#### 内外を行き来する動線をつくる

個室になりうる室は前庭と、半外部個室のセットになっています。内と外を行き来する生活は、どこか小さな集落のようであり、家でありながらも小さな公共性が生まれます。

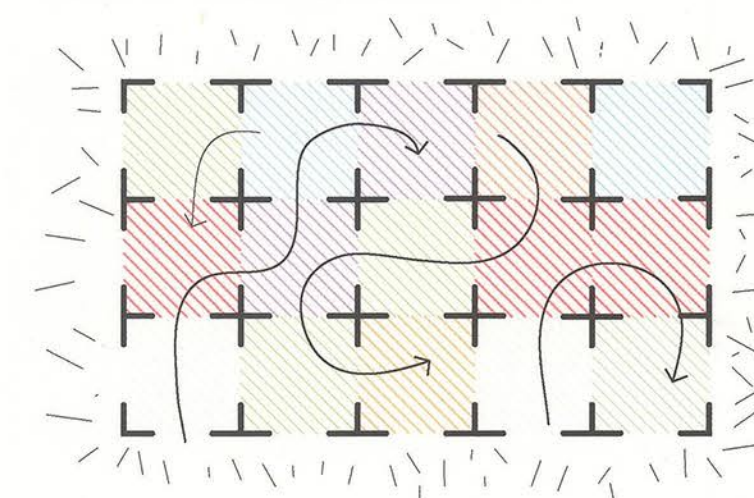


[ Fase4 ]

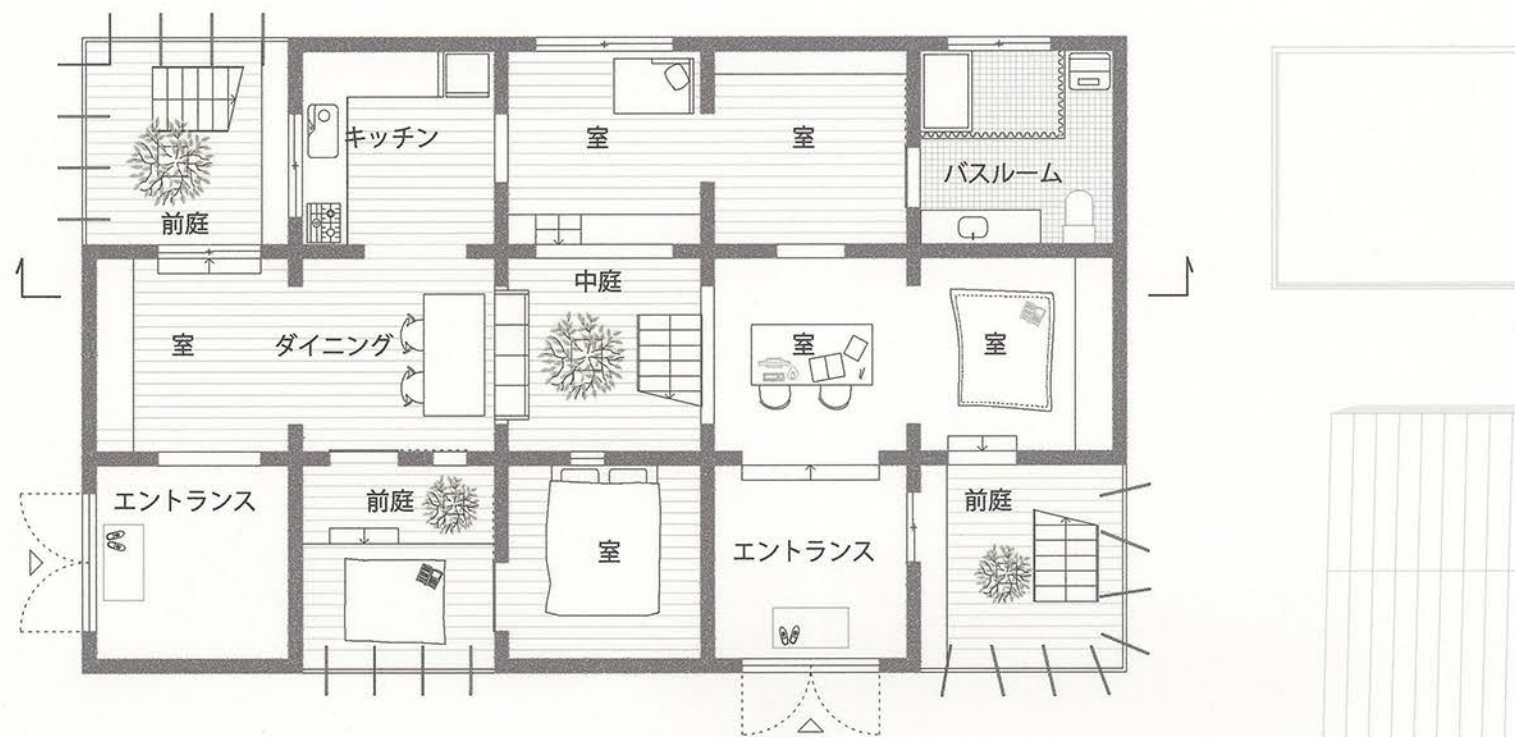
#### 可変性のある中間層をつくる

全体を覆う屋根をかけ可変性のあるルーバーを設けます。屋根は部分の集合体におおらかなまとまりを与え、ルーバーの可変させることで、外部に開き、都市と連続させることや、閉じて個室としてつかうことができます。

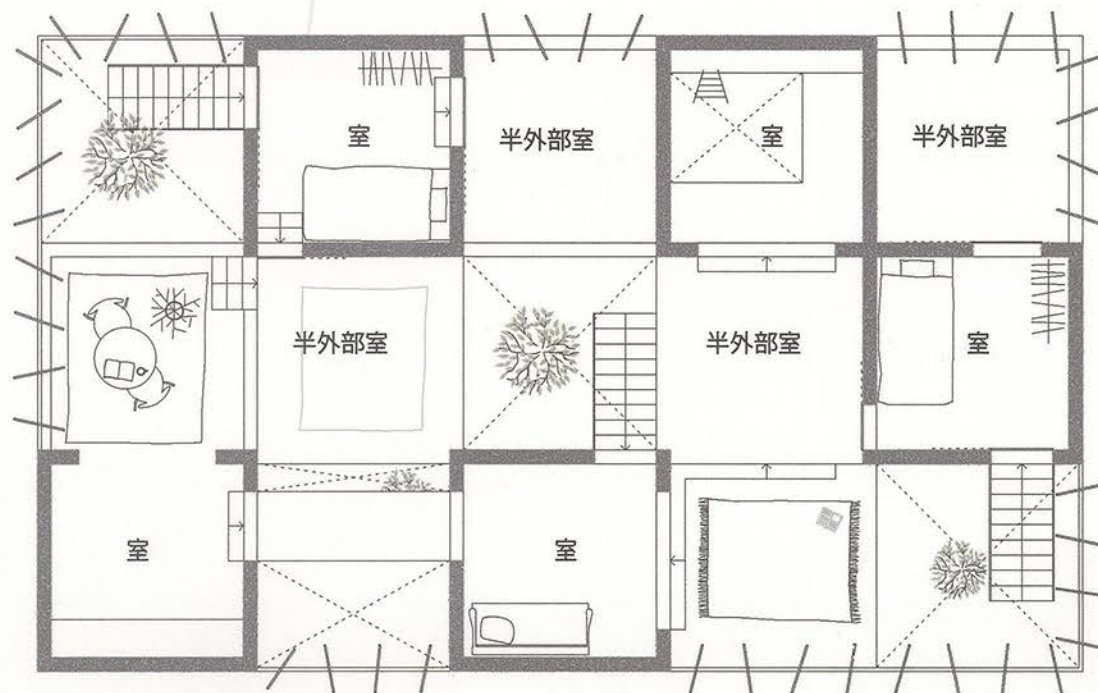
### 〈更新され続ける多中心な家〉



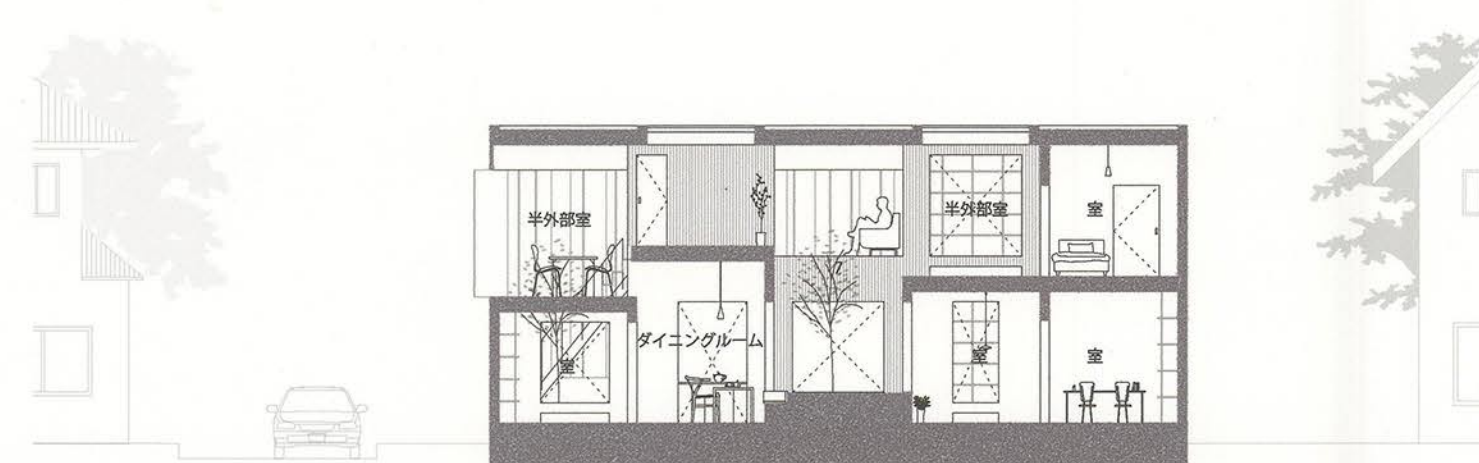
この家には名前が決まっていなかった部屋が複数あり、生活するうえで、+αの部屋は住民達がカスタマイズしていきます。子供部屋にしたり、アトリエやシアタールームにしたり、また皆で共有する図書館にしたり、と住む人が生活に合わせて部屋に名前をつけていきます。



1階平面図 S=1/100



2階平面図 S=1/100



断面図 S=1/100